都と を北た

紅き 絶たえ 0 時を越え来な て空潔

海カ

ればば

鈴ずらん

薫な

素る

Ō

野の

辺~

蕭々とし 大いりく 我北州の島 . の 精錬 して水寒し まりて

> 吹^ふ雪き 0) 燃ゆる 下蔭草繁る

眺^な 四しめ 季き に 飽 ぁ の変遷 興 添えて は叫ぶ冬の夜半 かぬ姿かな 蔦 葛

0 白玉散り乱 る

入らざるや森林

ö 7

え

ウ の 幸謳ふか 上を払ら ばる 時 き な

文ぶん

古嚢は盛らず新酒な このう も にひがけ 見よ文明は北進す 渺り海 新文明の建設は 地は広漠の沖積層 れる都 にあらずし たる大河の片辺 を

T

0 秘奥探る可く 照す可く

柳沢 愛之助 秀雄 君 君 作 作 歌 曲

と凝る

鯨い

群公

吼ほゆ

いる荒潮

物深き野の

面も

浮華軽佻を

の国とせず

聖都を永久に

嘶なな 駒の跡追へば

の畑は たそがれて

我ねお

が使命成し遂げん

真な

素樸は

<u>の</u>

郷き

となし